

○議長(森 弘秋君) ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

6番 竹島貴行君。

○6番(竹島貴行君) 竹島貴行です。

早いもので、東日本大震災から10年がたとうとしています。改めて犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された復興途上の皆様に一刻も早い復興をお祈りし、お見舞いを申し上げます。

また、社会はコロナ禍の中で混乱の極みにありますが、いよいよ舟橋村でも高齢者を筆頭に一般住民へのワクチン接種が始まる予定と広報ふなはし3月号に掲載されました。ここに来て多少の混乱も見られるようですが、スムーズなワクチン接種により、コロナによる混乱と被害が早く終息し、社会経済の回復と庶民の日常生活が元に戻ることを願っています。

さて、私は通告しております2点について質問をさせていただきますが、分かりやすい答弁をお願いいたします。

まず初めに、村長は選挙前の段階から、前村長の政策を評価し、継承することを公言され、自分のカラーを出すとも公言されてきました。政策を継承するといっても、政策を遂行する立場の首長が違えば、政策に表現されている言葉一つ一つの解釈の仕方や考え方、行動の仕方は当然違うだろうと私は思います。そして、それが自分のカラーを出すということにつながることはないかと思えます。

前村長は、舟橋村を誰もが住みよい、そして住んでよかったと思える村づくりをしたいと私に話をされていましたが、今ここに新たに就任された古越村長が目指す村づくりについて、前村長の政策を継承するとはどういうことなのか。そして、古越村長のカラーとはどのように理解すればよいのか。それをどのように村づくりへ盛り込もうとしているのか。古越村長が目指される村づくりについて、考えをお聞きしたいと思えます。

次に、防災行政について質問をします。

新年度新規事業として、防災士養成研修受講料負担事業が盛り込まれています。この目的は地域防災の中心となる防災士を増やすためと説明を受けていますが、周辺自治体等を例に見ても、単に防災士を増やすことが地域防災の向上に結びつくだらうかと疑問を感じています。

そこで、まず防災士とはどのような資格なのか、また村は防災士についてどう理解し、

行政にとっての必要性をどのように考えているのかを質問します。

なぜなら、蜃気楼のごとく安易な行政パフォーマンスにならないことを願っているからです。しかし、防災士を増やすことは防災行政を前に進めるためのきっかけになるのではないかと期待します。

その点を踏まえ、次に、村がこの事業を通して防災行政にどのように生かしていくつもりなのか。多分何かを考えているだろうという期待をして質問します。

3つ目に、この事業で防災士を各地区へどう割り振り、地域防災機能をどのように展開していく考えなのか。

村が思い描いている防災行政の取組について、住民の皆さんに説明する立場である私にも分かるよう、丁寧な説明をお願いいたします。

質問は以上であります。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 6番竹島議員さんのご質問にお答えさせていただきます。

先ほど、前原議員さんのご質問でもお答えいたしましたとおり、この4年間、「みんなで創ろう「ふなはし」 チーム“ふなはし”で新しい時代にチャレンジ」を合い言葉に政策を進めてまいりたいと思っております。

具体的な方向性では、まず前村長が推進して、人口増や出生数の増加した子育て共助のモデル事業についてであります。昨年11月に行われました園むすびイベントには、私も参加させていただきましたが、出店者や来場者、パフォーマンスをされている方など、皆さん笑顔で非常に生き生きとされていたことが強く印象に残っております。

これらの事業は、より多くの方々に舟橋村を知っていただいたり、村に足を運んでいただいたりするきっかけにもなっており、多くの子育て世帯の転入につながりました。将来の人口ピラミッドを考えますと、これからも一定程度の子育て世帯の転入は必要と感じております。

今後は、村の子育て環境のよさを知っていただいた方々に引き続き村に住んでいただくためにも空き家を利活用した定住対策も必要と考えており、専門家を交えた相談体制の整備も図ってまいりたいと考えております。

また、健康は全ての人の願いであり、特に高齢者や体が不自由な方々からは不安の声をお聞きしております。先生が開業していただければ、村民の安心感は全く違ってまいります。

大変難しい問題であると認識しており、一朝一夕には解決できないと思いますが、あらゆる可能性を考えながら取り組んでいきたいと思っております。

次に、防災でございますが、近年は全国各地で大規模な災害が発生している状況にあり、昨年3月末に改定しました村のハザードマップでも、大変厳しい状況下にあることが示されております。

私は消防団活動を30年余り続けてまいりました。消防団は、地域防災の要であり、「安全・安心な舟橋村を守り抜く」を合い言葉に日々活動しておりますが、最近県内でも大きな災害が発生していないこと等から、村民の方々の防災意識は高いとは言えない状況にあるとも思っております。

自分たちの暮らす地域を自分たちで守り、より安全な村を実現するため、村民の方々の防災意識の向上に向けた取組を進めるとともに、長年消防団活動で培った経験やネットワークも生かして、災害への備えを進めてまいりたいと考えております。

そして、学校と地域をつなぐ支援体制の実現についてであります。

地域と学校が連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、4月から新たに地域学校協働本部を舟橋会館に設け、地域の皆さんの協働活動と小中学校との連絡・調整役となる人材を配置する予定にしており、今定例会に提出いたしました来年度予算にも、必要な人件費を計上させていただいております。

地域の皆様の中には、これまでも学校活動や子どもの健やかな成長のためにご尽力いただいている方々が多くいらっしゃいます。来年度以降もこうした方々にこれまでの協働活動を継続していただきながら、「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」といった挨拶の輪が広がるような環境を整えて、村民一丸となって取組してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、村民の皆様がより笑顔で安心して暮らせることのできるまちづくりのために尽力してまいりますので、皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 6番竹島議員の防災行政に関するご質問についてお答えします。

まず、県が主催する防災士養成研修受講料負担金については、ご承知のとおり、令和3年度から新規予算として10名分の受講料助成を計上しております。予算計上に際し

て県内の状況を調べましたところ、10の市町で既に導入済みでありました。

そもそも防災士とは、「自助・共助・協働」の基本理念の下、平常時から家庭や地域、職場での防災啓発を行い、万が一の事態発生の際には防災リーダー役を担うことが期待されている民間資格です。資格取得により特定の権利が得られる、もしくは行動が義務づけられるといったことはございませんが、多くの自治体が予算を計上して防災士を養成しております。

防災士有資格者は、本年2月末現在で全国に20万5,896名いらっしゃいます。うち富山県は1,691名です。本村における有資格者は現在4名ですが、今月下旬に県が開催する養成研修には新たに3名が受講予定で、本村においても徐々にではありますが、地域防災に関する住民の意識が高まっている現れと認識しております。

重ねての答弁となりますが、地域防災は自助・共助・公助の体制を確立することで成り立つものと認識しております。自助とは、万が一の際に、まずは自分の身を守ることが最優先であるということです。万が一の事態発生の際は、公助となる消防や警察等の機関は、各地で同時に多発した事態に個別に対応することは困難となります。そこで求められるのが共助であります。

議員ご指摘のありました本村における防災行政構想に関しては、かねてから答弁しておりますとおり、共助の体制強化が最重要課題と認識しております。共助に関しては、当村の場合、自主防災組織、つまり各自治会が単位となるべきと認識しておりますが、自治会のリーダーたる自治会長様は毎年交代される地区が多く、防災に関する知識や経験を引き継ぐことは難しいものと認識しております。

そのような状況に鑑み、自治会長様や自治会役員様、民生・児童委員様等、これまで防災にご協力いただいていた皆様方とは別に、一般の住民の方にも防災に関する知識を深めていただく、また地域における防災意識を高めていただくことを目的として、新年度予算に新たに計上させていただいたものでございます。

ご指摘があった、村が各地区へ防災士を割り振るという考えは現時点ではございませんが、今後の自治会長会議等において、新年度より研修参加者の受講料助成制度を開始することも含めて、防災士の必要性をお知らせし、将来的には全自治会に防災士の有資格者を配置したいと考えております。

各自治会や各種団体等において皆様がお集まりになる機会がありましたら、防災士についてもご検討いただきたいと考えております。その上で、各自治会によって実情が異

なりますので一概には言えませんが、自主防災組織を自治会本体とは別に独立した組織として位置づけて、住民の皆様のご理解とご協力をいただくことで本村の地域防災力を向上させてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁といたします。

○議長（森 弘秋君） 竹島貴行君。

○6番（竹島貴行君） 今、ご丁寧な答弁、ありがとうございます。

答弁の趣旨は十分理解できたのでありますが、私が気にするのは、今言っておられること、建前等をどういうふう to 実現するかということでもあります。

今、古越村長は、これからの村づくりについて、これまで表明されたことを同じように言っていただきました。その言っていただいたことを目指すことを実現していくために、それをどうするかということでもあります。

私は、舟橋村で子育て共助が非常に評価されたと。これは一つの政策の成功例であるというふうに思っております。これがなぜ成功に至ったかと。これも一朝一夕で実現するものではなくて、時間もそれなりにかけてきたのでありますが、その陰には、庁内に若い人たちのプロジェクトチームを立ち上げて、古越村長が、選挙のときに、縦割りから横のつながりを重視するんだということも言っておられましたが、まさにその典型だろうというふうに考えております。

一人一人役割分担、与えられた仕事を地道にこなすのではなくて、その役割を担いながらも、同じプロジェクトの目的については協働して取り組んでいくという、そういう取組が政策の成功につながっていくのではないかとというふうに思います。

おかげで、子育て共助につきましては、舟橋村の合計特殊出生率、これは県が令和元年度において1.53であったものが1.86という、そういう成果も出ております。

私は、この取組についても、ずっと個々を見ながら、担当職員ともヒアリングを重ねながら実情を把握してきたつもりであります。その中に、やはり職員や、あと関連するスタッフたちの頑張り等を見ながら、あ、これはいいなと。この流れをつくっていくということが成果に結びついていっているんだろうなというふうに思います。

ただ、そこに取り組んでいる職員たちは、自分の生活をある程度犠牲にしても、だけど思いがありますので、この子育て共助について取り組んでくれたというふうに考えております。その結果、評判が舟橋村に若い人たちの流入につながり、舟橋村も人口の増につながったというふうに考えております。

このやり方を、これは一つの宝として、村長も今後ほかの政策に生かされれば、これまで子育て共助ばかりが目立っていたために、住民から、ちょっと偏っているんじゃないというふうに思われたものを修正していけると。ほかの政策についても、それなりの成果が出せるんじゃないかというふうに、これは、僭越ながら私の所見であります、村長にも考えていただいて、今後取り組んでいただきたいというふうに思います。

私どもは、職員たちにも頑張れというエールをいつも送っている立場でありますので、村の数少ない職員の人たちには、今後も情熱を持ってこの村政で舟橋村の住民のためにも頑張りたいというふうに願う次第であります。

これについて、また村長の所見をいただければというふうに思います。

また、防災行政について、けさの新聞ですが、防災専従職員がいないという、そういう記事も載っておりました。

これを見て私が思ったことは、確かにこの舟橋村において、防災行政に対する専従職員を置いた場合、ただでも職員が少ないのに、それは無理だろうなど。これは国の政策において公務員を削減しろというふうな、そういう方針に基づいて村のほうも取り組んできているという実態もありまして、これをどういうふうにかえるのかと。

ただ、防災というのは非常に安心・安全を守る上でも大切なことではあります、舟橋村においては、専従員を配置するということは無理があるんだろうなというふうに思った次第であります。

ただ、総務課長から、やはりこの防災士を増やすことにおいて防災力を高めたいという、そういう思いは伝わってまいったんでありますが、災害というのは、いざというときに、どういうふうに対処できるかということでもあります。

ですから、せっかく今防災士を増やすのであれば、その人たちをどういうふうを活用していくかということをしつかりと考えて行動に移していくべきだろうというふうに私は思っております。

その点についても、いや、その答弁はしたよというふうに言われるかもしれませんが、再度答弁を求めます。よろしくお願いします。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 今ほど、竹島議員さんの再質問でございます。

職員の努力に、もう少し頑張れよというお言葉をいただきまして、ありがとうございました。これからも村の取組につきまして、職員の力を合わせまして、全力で物事に取

組をしていまいりたいというふうに思っております。

特に、先ほど言いました空き家対策等につきましては、これから、舟橋村だけではなくて、全国的な課題になっていくんじゃないかなというふうにも思いますので、そこらあたりも十二分に考えながら、職員とともに舟橋村の発展に向けて努力をしていまいりたいというふうに思いますので、よろしくご指導をまたいただきますようお願いいたします、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 竹島議員の再質問についてお答えをいたします。

防災士ですけれども、例えばこれを村からお願いしてやる。そういったことでは、やっぱりなかなか浸透していかないと思うんですね。その地区にやる気のある方というのは、防災意識の高い方というのは必ずいると思います。そういった方に手を挙げていただいて、地区の防災の要になっていただきたい。中心になっていただきたい。自主防災組織のリーダーになっていただきたい。そして、例えば地区で防災訓練を企画する。研修を企画する。そういった活動をしていただいて、地域住民の防災意識の向上に努めていただきたいというふうに考えておりますので、そのためには村としても支援について惜しまないものと思っておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

以上であります。